蔭様で大切な巻物が助かった。何かお礼をしようと思うが、狐の身では何もできない。幸い化けることは上手であるから、芝居をやってお目にかけます。しかし何といっても獣の身、坊さんに、思わず有難い念仏など唱えられますと、たちまち逃げちってしまいます。」

「決していわないから、ぜひ見せてくれろ。」

ということになって、夕方になって坊さんが河原にでかけてみると、たちまち大きな舞台がかかり、どとんこどんと太鼓がなりひびき、芸題は平家物語、熊谷敦盛の段でここで「一の谷の戦敗れ、平家の公達、助船に乗らんとして、海の方に落ち給う…」となる。これが敦盛をくみふせて、直実がつきさす段になると、坊さんは、あまりに真にせまっているので、約束のことも忘れて、思わず「南無阿弥陀、々々々」と念仏を唱えてしまった。

さあ大変、舞台はがたがたと崩れ、明りは消えて、たちまちもとの河原になってしまった。そこへさんぼうの助が現れて

「坊さん、あれほど頼んだのに、どうして念仏を唱えられましたか。」